

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

「科学する心」に繋がる表現遊び／福島市立庭塚幼稚園

幼稚園教育要領、保育所保育指針、また、幼保連携型認定こども園教育・保育要領には、自然との触れ合いにより、子どもたちに豊かな感性や認識力、思考力、表現力が培われることが示されています。今回はこの内容に結び付く環境の工夫により、自然との関わりを深め、豊かな表現活動を楽しむ子どもたちの事例です。



● アオムシと表現／4歳児

✦ 5月

環境

園の玄関に置いたサンショウの木に、アゲハチョウがたくさん卵を産み付けた。

援助

保育者は絵本「はらぺこあおむし[※]」の読み聞かせを行う。果物を食べる場面では、幼児が楽しんで絵本を見ることができるよう、歌を歌いながら読み聞かせを行う。

※ [はらぺこあおむし](#) 作:エリック・カール、訳:もりひさし 偕成社

● 子どもの姿

- 生き物に詳しいMちゃんが「チョウチョの卵じゃない？」と言う。
- Aちゃんが「はらぺこあおむしと同じだね！」と言う。
- 次の日から、登園時にサンショウの木に目を向け、生長を楽しみにしたり、変化を喜んで観察したりする姿が見られる。



✦ 6月

援助

好きな遊びの時間や昼食の時間に、歌「はらぺこあおむし」の音楽を流す。

● 子どもの姿

- Bちゃんが「どうやってチョウチョになるの？」と言う。
- 自然と歌を覚える。
- 歌を聞いたり歌ったりしながら、それに合わせて絵本を見る姿がたくさん見られる。

- 学級のみんなで歌を歌い、一人が絵本をめくっていき、みんなで同じストーリーを楽しむ。
- アゲハチョウが卵から幼虫になるまでの成長を観察する。



✿ 6月上旬

援助

動きがなくなってきて、まもなく蛹になりそうな幼虫を虫かごに移す。

● 子どもの姿

- 幼虫が動かなくなること気付く。次の日登園すると、形を変えて蛹になっていることを発見する。生き物に詳しいMちゃんが、「おなかいっぱいになったから蛹になったんだね」と言う。
- 虫かごの蛹を観察している。
- 数名の子どもが虫かごを落とし、蛹が割りばしから落ちてしまう。
- もしかしたらチョウになれないかもしれないと不安を感じ、Hちゃんは泣きながら蛹に「ごめんね。ごめんね」と言い謝る。みんな蛹を心配し注目する。



援助

成長を見てきたため、「チョウチョになって欲しい」「生き物の命を大切にしよう」という思いを強くもっていることを共有する。蛹が落ちてしまった時にはどうしたらよいのかを調べ、両面テープを使い、蛹を割りばしに付ける。

✿ 6月中旬

環境

歌に合わせてペープサート遊びを楽しむことができるように、幼児の登園前に、保育室に遊びの場の環境設定をする。幼児が親しみやすいように、絵本のイラストをそのまま使用したペープサートを作成する。

● 子どもの姿

- すぐに環境に興味をもち、音楽に合わせて自然とペープサートを動かし始める。その姿を見て、他の子どもたちも意欲をもち、「次私ね」「じゃあその次僕ね」と交換しながら遊ぶ。
- 友達と一緒に、一人がペープサート、もう一人は絵本を持って歌に合わせてストーリーを進めていく姿も見られる。
- Eちゃんはペープサートを好み、毎日登園するとすぐに遊ぶ姿が見られる。友達の前でも大きな声で歌を歌うこともできるようになる。



環境

蛹が蝶になる。

● 子どもの姿

- 登園後すぐに蝶に気付き、「あっ、チョウチョになっている！」と口々に言う。夢中になって蝶を見る。
- 蛹から、色も形もまるで違うアゲハチョウが出てきたことに驚く。

- 登園してすぐ蝶が出てきていることに気付いたAちゃんは、急いで「はらぺこあおむし」の絵本を持ってきた。そして「これとおんなじだね！」と言って、アゲハチョウと絵本の蝶のページを見比べる。
- 「ほら、見て！一緒だよ！」と親しんだ絵本のストーリーと同じように成長し、ついに蝶になったことを喜び合う。
- 卵から幼虫、蛹へと成長を見てきたみんなが、蝶になったことへの喜びを感じていることを互いに感じ取り、共有し合う表情になる。
- Mちゃんはペープサートを持ち、ヒラヒラさせて歌う。



環境

翌日、親しんでいる絵本の絵と同じような環境を保育室に作る。

● 子どもの姿

- すぐに目を輝かせ「うわー！」と歓声を上げる姿や、「はらぺこあおむしだ！」と喜ぶ姿が見られる。
- Dちゃんが葉の上で小さくなる。保育者は「うわー、Dくんの卵とってもちっちゃいね。」とDちゃんの動きを認める言葉かけをする。
- 他の子どもたちも次々と笑顔で動き出す。
- 青虫が太くなる場面では、体全体で大きく太くなった青虫を表現する。Mちゃんは、「私はこーんなに太っちゃだよ！」と言って、他の子どもたちとは違った表現をする。
- 蝶になった場面では、実際に見たアゲハチョウをイメージし、両手を広げて羽ばたかせ、保育室中を笑顔で駆け巡る。
- 翌日、登園したEちゃんがテープを持ち出してすぐに遊び始める。その姿を見て、他の子どもも一緒に表現を楽しむ。“太っちゃ幼虫”を表現したMちゃんの姿を真似て表現する姿が見られる。



✦ 考察

実際にアゲハチョウの卵から成虫までの成長を観察した上で「はらぺこあおむし」の表現活動を取り入れることができたことで、より楽しさを感じて活動に取り組むことができた。子どもたちが自然と関わる中での気づきを言葉などで表現した時に、保育者や友達が共感することで、子どもはさらに興味・関心を深める。そして、人へ伝えることの嬉しさや楽しさを感じる体験になった。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」